

平成31年度 杉並区立東田中学校 学校経営計画

杉並区立東田中学校
校長 杉 田 正 穂

1 教育目標

これからの中等教育に求められるのは、激しい変化とグローバル化の進展した社会の中で、自立し、社会に貢献したくましく生きることができる「人間力」の向上である。

その実現に向けて、杉並区教育ビジョン2012ならびに生徒・保護者・地域社会の実態に基づき、次とおり「校訓」及び「教育目標」を設定する。

◎校 訓 「伸びていく」	～自ら学び、自ら治め、自ら営み、自らを愛す～
◎教育目標 「自立力 社会力」	

2 めざす生徒像

- (1) 自ら学び、考え、判断し、表現できる生徒 (自ら学び)
- (2) 自分自身について考え、集団や社会とのかかわりについて考える生徒 (自ら治め)
- (3) 社会に貢献したくましく生きる力を身につける生徒 (自ら営み)
- (4) 互いの個性を認め合い、自他ともに大切にする生徒 (自らを愛す)

3 めざす学校像

◇次のような学校像の実現に向けて「親切に、丁寧に、最後まで」を合言葉に先見性、行動力をもって学校経営を推進する。

(1) 家庭や地域との相互理解や連携・協力体制を築き、地域から信頼され、共に夢を育む学校

- ①学校の基本姿勢や教育活動を積極的に発信し、保護者や地域の理解を得て協力を求めていく。
- ②学校だより、学年・学級通信を発行し、学校情報の公開に努めるとともにホームページを充実させて各学年、生徒会、部活動の情報提供に努める。

(2) 自立力、社会力を基盤とする自治力のあふれる学校

- ①集団生活の中で自らの役割と責任を自覚し、最後までやり遂げようとする態度を育成する。
- ②学校行事、諸活動等をとおして、主体的に活動し、よりよい人間関係を築く自治力を育成する。

(3) 生徒一人ひとりが自らの良さを發揮し、意欲的、創造的に活動する学校

- ①生徒に夢をもたせ、自己の目標をもたせて、その夢や目標達成に向けて挑戦させる。
- ②生徒の社会性や豊かな人間性の育成につながる体験活動、奉仕活動を推進する。
- ③「いじめ撲滅スローガン」「SNS 東田ルール」等、生徒会が主体となり、学校のルール作りをし、生徒が意欲をもって活動できる学校づくりを推進する。

(4) 教職員一人一人が、人権感覚を磨き、自信と誇りをもち、共に成長していく学校

- ①生徒一人一人の学力を高めるための指導力向上に向けた授業研究、校内研究を充実させる。
- ②人権尊重の視点に立った生徒理解と指導、望ましい人間関係作りを推進する。
- ③教職員一人一人が個性を發揮しながら、一致団結して課題解決に臨む組織を構築する。

4 学校経営計画の基本方針

(1) 学校運営協議会を設置し、地域・保護者・学校が一体となった学校運営

- ①学校運営協議会を開催し、教育活動の充実や学校運営の改善に結び付け、よりよい学校教育の実現にむけて取り組む。
- ②保護者・地域の情報等に対して謙虚に耳を傾け、誠実に対応する。
- ③地域の教育力の活用や地域活動への積極的な参加を促し、生徒の自立力、社会力を育成する。

(2) 教育活動全般における自己肯定感の向上

- ①教育活動をとおして、自己の目標をもたせると共に、将来にむけて夢（ビジョン）をもたせる。
- ②各行事の意義を理解させ、意欲をもって創造的に実践する態度を育成する。
- ③学級活動、委員会活動、部活動等をとおして、集団の一員であることを自覚させ、共に生き、成長していく力を育成する。

(3) 生涯学習の視点から、「基礎・基本の定着」を図る授業実践

- ①生徒一人一人の関心を高め、意欲的に学びたくなるICTを活用した授業を展開する。また、少人数授業や放課後補習を利用して個に応じた指導を工夫する。
- ②年2回の生徒による授業評価への取り組みをとおして適時に授業改善を図る。
- ③小中連携「すぎなみ9年カリキュラム」の活用を図るなど、小学校での学習を生かした授業を実践し、学びの連続性を意識させる。
- ④主体的・協働的な学習をとおして思考力・判断力・表現力等を育成する。

(4) 豊かな心の醸成

- ①生徒間および教師との互いの人格を尊重しながら信頼関係を築き、生徒一人一人に自己肯定感がもてるよう、学年・学級経営案に基づいた学級経営を充実させる。
- ②年間指導計画に基づく道徳授業の意図的な指導、「特別の教科 道徳」を見据えた道徳授業の改善と内容の充実を図る。
- ③「学校いじめ防止基本方針」に基づく指導の徹底を図るとともに、いじめ対策委員会による組織的な対応を推進する。

(5) 特別支援教育の充実

- ①SCや関係諸機関と連携し、特別な支援を要する生徒についての個別指導計画を作成し、合理的配慮に基づく支援を充実させる。
- ②巡回相談員、特別支援教室専門員と連携し、配慮を要する生徒への理解と支援の充実を図る。
- ③校内支援委員会を週1回実施して情報交換を行い、支援についての共通理解を徹底する。
- ④ユニバーサルデザインを取り入れた学習環境を整え、生徒が集中して授業が取り組める学習環境の整備に努める。

(6) 教職員の資質向上、課題解決に臨む組織力の高い職場づくり

- ①教職員一人一人が日常の職務を見直し、人権感覚を磨くとともに常に公務員の自覚をもって服務の厳正を図り、教職員相互で事故防止を図る。
- ②教育活動や学校行事の事案決定の流れに沿った起案をするとともに、教員相互の連絡・報告・相談を徹底し、組織的な対応と実行力を高める。
- ③教員同士が切磋琢磨し、教員の質を向上させるよう教え合い（OJT体制）の体制を構築する。